

ワイン課通信 7月5日号

おつかれさまです。銀座大野の戸澤です。

今回のワイン課通信では6月28日におこなわれたPDSの会のご報告をさせていただきたいと思います
テーマは「ビオダイナミ(バイオダイナミクス)農法について」といった内容でおこないました。

ビオダイナミ...オザミではよく聞くフレーズではありますが実際のところビオダイナミとは一体、どういった農法なのか？また、プレパレーションやホメオパシーといった言葉、そして、その効果など端的には知りえてもよくわからないことが多いかと思われます。そういった、事柄について今回のPDS会では私自身、まだまだ勉強不足ではございますが皆さんにお話をさせて頂きました。

文字ばかりで見づらいますがお読みいただけたら幸いです。

・ビオダイナミ(バイオダイナミクス)

そもそもビオダイナミとは何なのか？

1924年に現在のポーランドにあった失われた町コーベルヴィッツにておこなわれた8回にわたる農業講座を基にする人智学者である**ルドルフ・シュタイナー**が提唱した思想にもとづく農業。

一般的によく言われていることが月や諸惑星などの天体と地球のつながりを考え、畑を取り巻く生態系の形成を重視し、科学薬品や肥料を基本的に否定した農業といわれております。

太陽系に連なる諸惑星(恒星である太陽を中心とし水星、金星、地球、火星、木星、土星の並び)星の位置、星座との関連性。

プレパレーションといわれる調合剤

学術的に考えてしまうとオカルトな印象を受けてしまいがちではありますが、昔の方々は天体と地球の関連性について現代の人々よりも身近にあったため普通におこなわれてきたことです。

ついでに、よくビオダイナミといえば葡萄のイメージはありますが基本はすべての農作物に対して適応される農法であります。

・プレパレーション(preparation)とは？

ビオダイナミではプレパレーション(フランス語で調合または調合薬)と呼ばれる、自然界に存在する物質を調合した調剤を使用して土壌や葡萄樹の能力を引き出すとしています。プレパレーションは調合した物質そのものを与えることによる影響を重視するのではなく、調合により生まれたエネルギーを与えるものと考えられています。

実際、畑に使用する生成される物質の量は、非常に少ないためそのもので影響を与えるには科学的に考えるとあまりに少ない量です。

プレパレーションで出来た物質をエネルギーに変えるのがディザミナシオンといわれる希釈過程でこれをおこなうことにより調合剤の活力強化がされるそうです。

この希釈によって畑に及ぼすエネルギーが増すというのがビオダイナミでの定義だそうです。

プレパレーションはさまざまで、牛の角に牛糞を詰め、冬の間、土中で寝かせたものや、水晶を砕いて粉状にし、牛角にいれて寝かせたものは希釈して使用します。このほかにもアキレーの花を鹿の膀胱に入れ、吊るすことで、花の持つ硫黄が土中のカリウムを呼び起こして植物の活性化を促すといったものもあります。

こうしたプレパレーション使用や農作業、剪定の日などは、すべて**農業暦**とよばれる**ビオカレンダー**に基づいておこなわれております。

・主なプレパラシオン

ピオディナミ(バイオダイナミクス)農法で主に使用する調剤は500番～508番と呼ばれるもの
ピオディナミ農法に必要なもので、畑へ散布したり、堆肥へ入れたりすることによって、宇宙的なエネルギーを受け自然界に存在する微生物を活性化させる効果があるそうです。
調剤は、その土地にある微生物を活性化させることによって、現在は、生物力学的に理想的ではない環境においても、理想な自然な状態に近づけることができるとされています。

調剤は、シュタイナーの「農業講座」内では、9種類示されておりまして、
基本は2種類に分けられておりまして畑に散布されるものと堆肥にまぜて使用されるもの。

500番牛糞調剤(畑に散布)

501番水晶調剤(畑に散布)

502番ノコギリソウ調剤(堆肥へ)

503番カモミール調剤(堆肥へ)

504番イラクサ調剤(堆肥へ)

505番カシ調剤(堆肥へ)

506番タンポポ調剤(堆肥へ)

507番カノコ草調剤(堆肥へ)

508番スギナ調剤(畑に散布)



(牛の角)

これら、プレパラシオンの使用はそれぞれの調剤の特性にあった時間にあわせて散布されたり
ピオカレンダーを見て最適な日に撒くことによりその効果を発揮させ、天体との関係が補助され
土壌やブドウ樹の活力が強化されていくのだそうです。

・ホメオパシーについて

これもよく聞くフレーズかと思いますがもともとは医学用語であり、同毒治療や類似療法とよばれる治療法です。

基本的には現在おきている、もしくはこれからおこる症状と同類のものを極微量、希釈し使用することにより症状に対する免疫力を持たせたり治療したりする効果があるとされています。

インフルエンザワクチンに近いイメージです。
これを農業に採用しべト病やうどん粉病などの病害に対する免疫力を持たせます
このホメオパシーを利用するための方法は
これもやはり希釈させることが重要であり
各、病気の兆候が発生したのち、原因となる病原菌を採取し水などで希釈させて
これを畑に散布させることによりブドウの樹が



本来持つ自己の治癒能力を高めることを補助する役割を果たすのだそうです。

こうすることにより病気に対する免疫力を持たせ、進行するはずであった病気が後退していくそうです。

このホメオパシーの使用は原因となるものを排除、撃退するのではなく

あくまでもこの原因菌は畑(大地)の中に存在しこの原因菌が多すぎることが問題でありそれらを理解したうえで共存の中に活路を見出し、受け入れ病気の進行に対して自らの治癒能力や免疫力を持たせるための手段として使用されます。

こういった自己治癒能力を上げてあげることによりボルドー液等の使用が減り、土壌や周辺環境の汚染を防ぐ、抑えるなどの利点があるそうです。

・500番

牛糞を雌牛の角に詰めて作られる調剤。土の力と植物との間に良い関係を築かせる調剤。土に撒く調剤で、大地を活性化。その結果、地中の細菌、微生物、虫等の繁殖を助け、根の成長を促し、樹液の循環を刺激するのだそうです。水の中で攪拌して土に散布します。

・501番

水晶を雌牛の角に摘めて作られた調剤。宇宙の力と一緒に働き若い作物の同化プロセスを促進し、組織を丈夫にする働きがある。植物が太陽の光とよりよい関係を保つように働く。植物の光合成を刺激し、作物の新陳代謝を促進し、色づき、芳香、風味を良くする。病気や害虫に対する抵抗力を高める。水の中で攪拌して地上に散布します。関係する惑星は太陽。

・502番

ノギリソウ(アキレー)の花を牡鹿の膀胱に詰めて作られる調剤。大地を活性化し、植物の内の物質に対して硫黄の量を調整し、硫黄やカリウムの利用を助ける。また、必要な微量要素の吸収を助ける。関係する惑星は金星。

・503番

カミツレの花を雌牛の小腸に詰めて作られる調剤。土の中の窒素を安定させ土の生命力を増やし土壌のシリカ(ケイ素)量を調整する。カルシウムと硫黄と関係を持ち、シリカとカリウムを正し関係に保つ。また、カルシウムと硫黄との関係を持つ。関係する惑星は水星。

・504番

イラクサを土に埋めて作られる調剤土が必要とするカルシウムと鉄を調整し、土を健康にする。硫黄との関係を持ち、堆肥から窒素分が蒸発するのを防ぐ。関係する惑星は火星

・505番

カシの樹皮を牛の頭蓋骨に詰めて作られる調剤。非常に活性化したカルシウムを含んでいて、植物の病気に対する治癒力をもたらす。月の諸力の影響を抑える働きを持つ。カルシウムと関係を持つ。関係する惑星は月。

・506番

タンポポの花を牛の腸間膜詰めて作られる調剤。ケイ素が土に宇宙の力を吸収することが出来るようにケイ素とカリウムの関係を調整する。関係する惑星は木星。

・507番

カノコソウの花から作られる調剤。土のリン酸分の調整機能を向上させ、堆肥への強力な活性化作用を持つ。
堆肥の発酵を助け、霜、寒さから植物を守る。水で薄めて堆肥に振りかける。
関係する惑星は土星。

・508番

スギナを煮出して作られる調剤。さび病等の真菌類による植物の病気を抑える調剤。
各調剤の調整的な役割を持ち、植物の品質を改良する。

こちらは500～508番までのおおまかな作り方と効果ですが不思議なものばかり使用しております。

また上記、調剤のほかにも「**マリア・トゥーンの樽堆肥**」といったものもあります。

これはバイオダイナミを始める際に使用したい調剤で牛糞堆肥の中に調剤の502～507番を含んでいてバイオダイナミに転換したい土地などに有効。これを撒くことによって、その後に撒かれる500番(牛糞牛角)調剤、501番調剤もより効果的に作用する。また2年間使い続けると有害な化学肥料や農薬の残留物質は土壌から消失すると言われています。

・最後に・・・

これまでお伝えしてきましたビオダイナミ農法をおこなうことにより畑を含む周辺環境(農場)が独立化し単体性を持つことに構造化されるそうです。

そうすることにより各農場がしっかりと区別されて農場として必要な物は農場で生産され消費されまた補われていくといったある種の循環型農業性をもつことに大地(地球)と天体との関連性を再認識し生命への理解を深め、大地の活力や繋がりを現代ではまず蘇らせる(現代ではそれらが適切におこなわれていない場合が多いため)ことにより自然的に畑(農場)の生態系を整えることにつながり土壌や周辺環境のバランスがよくなるとされ病気の原因菌やその他害虫の発生が抑えられ大地と動植物に共存性が生まれるはずであるとされます。これにより農薬や薬品に依存せずすみ、土壌汚染などの環境汚染を防ぐことにもなり、ひいては我々、人の体にも有益であるといったことをヴィニユロンの方々は自ら実践しブドウやその他、農作物を通して伝えてくれているのであり、そういった方々の思いが詰まったこの素晴らしい物を感謝し、伝え、そしてなにより楽しんでいきたいと思えます。

これまで色々述べてまいりましたが僕自身、こういったビオダイナミをおこなうことの大変さや苦勞といったものはこれまで正直、実感がわかなかったです。こうやって出来上がったものをなんの苦勞もせずに簡単に購入していただけたのですから。今回、このビオダイナミ農法を勉強させていただきこういった農業を実践してくださっているヴィニユロンの方々の気持ちや精神にほんの少しだけ触れることができ、考えることが出来たと思っております。農薬や化学肥料の使用、トラクターでの耕作などのある意味、現代的な利便性といったものを排除し献身的とも言えるほどに畑作業に自らの時間を捧げているその大変さを考えさせられました。そして、これには時間はかかるが自然が応えてくれるといったことを学ばせていただきました。

現在、地球環境は人間の手によってその活力を失い、生命としての表現が弱体化の一路を辿っていると言えます。農薬、化学肥料の使用、日本でも問題となっている原子力などこういった非自然的なものによりこの大地は汚染されてきています。人間の利便性の追及により犠牲になった大地、そして人の中で失われてきたものが沢山あります。我々が汚してしまった自然環境、それにより断絶されつつある宇宙界と地球界の繋がり、これらは人間が壊してきた影響であるといえます。

しかし、これらを癒し、繋がりを戻す手伝いを行うことができるのも人間であり、自然との共存の重要性をヴィニユロンの方々は考え、そして実践し、我々に本物を提供して伝えてくれています。

最後に自然と共存していく重要性をもっとも感じさせてくれた心に残る言葉がありこれこそが今を生きる僕らが次の世代の人々のために失われた自然との繋がりを取り戻すことの重要性を伝えてくれている言葉だと思っております。

「この大地は過去の先人たちにより手渡されてきたのではなく未来の子供たちから我々が借りているのである」ネイティヴ・アメリカンの酋長の言葉だそうです。

本当に最後になってしまい大変、申し訳ございませんが...ご不在ではございましたがわざわざこの会のために SP ワインをご用意しておいてくださいましたムッシュありがとうございます。

そして金子シェフ、島さん、林店長、デヴァン石橋さん、沢山の方のご協力があり会を終わらせることができました。ありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。

また、読みづらい中、最後までお読み頂きありがとうございました。

銀座大野 戸澤 祐耶